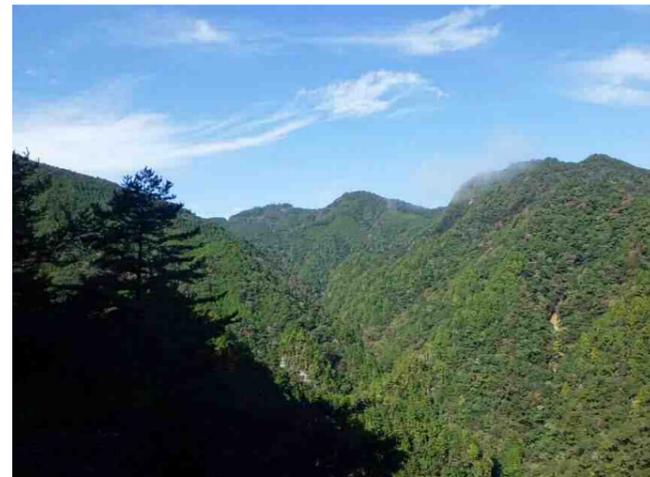


黒蔵谷生物群集保護林

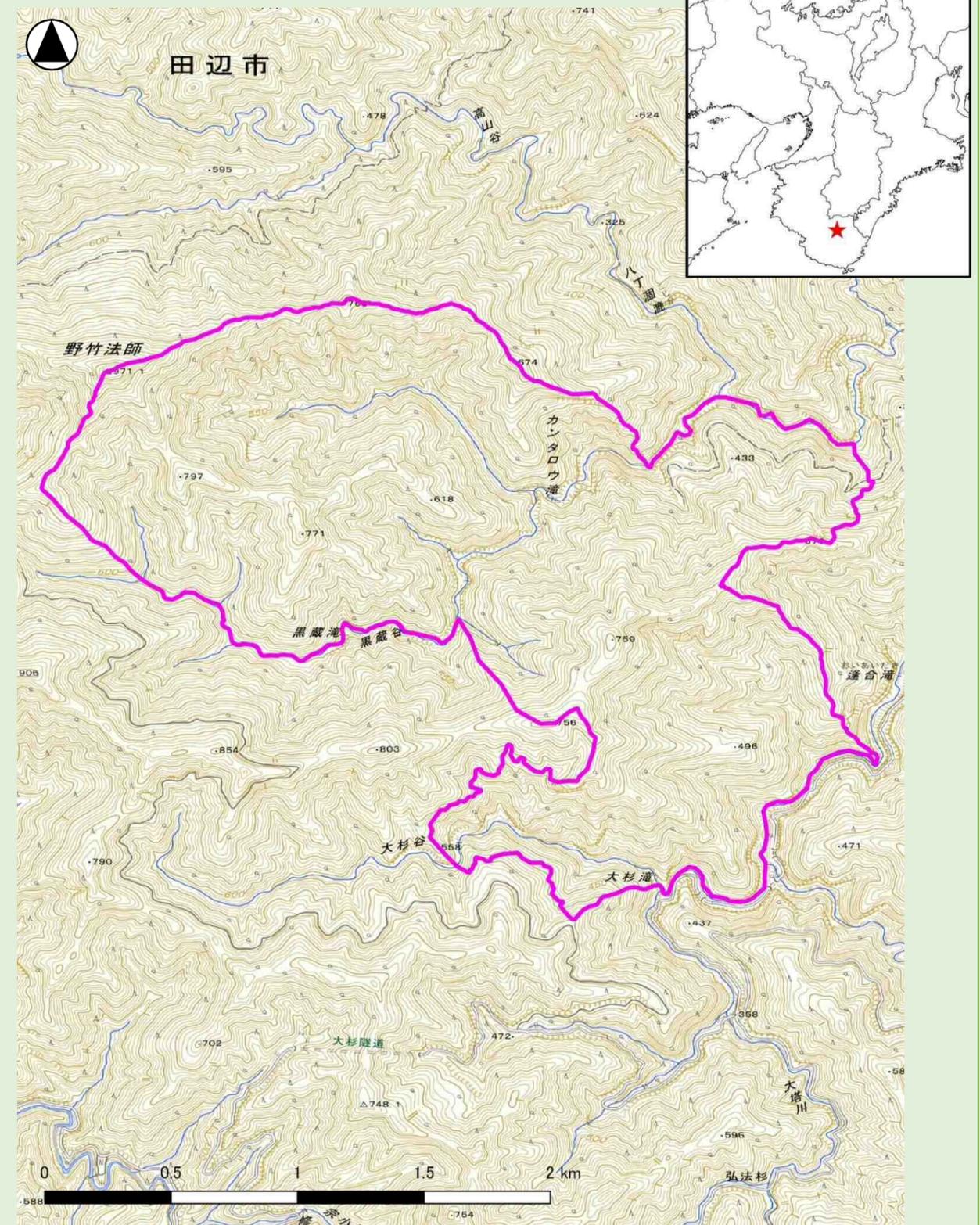
管轄森林管理局・署	近畿中国森林管理局・和歌山森林管理署
所在地・面積	和歌山県田辺市 ・ 515.87ha
設定年	平成9年1月13日設定、平成30年4月1日再編に伴う名称変更及び管理方針書設定
保護林の概要	<p>当該区域は、大塔川の源流一帯の大塔山系に位置し、大部分が暖温帯照葉樹林域であるが、標高900m以上の山頂部には冷温帯落葉樹林もみられ、連続した群落として多様な植生を形成している。温暖多雨の気候、複雑な地形等の条件に恵まれ、植物層は極めて豊富である。</p> <p>植物分類学的な意味では、「そはやき要素」といわれる日本古来の植物（トガサワラ、シロモジ、ヒメシャラ等）がみられ、また、暖温帯照葉樹林域の中に冷温帯落葉樹林もみられる等日本の植物分布を考えるうえで、非常に貴重なものとなっている。</p> <p>森林植生は、斜面から尾根にかけて広く分布するアカガシ林を中心として、野竹法師山頂や尾根の900mを超えるピークにはブナが生育し、稜線部ややせ尾根にはモミ・ツガ林、ヒノキ・コウヤマキ林、溪流沿いにはトチノキ・サワグルミ林がみられる。</p>



モニタリング調査の概要

実施年度	令和4年度
調査項目	森林タイプの分布等調査、樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、野生生物の生息状況、山火事等災害発生状況調査、病虫獣害・気象害発生状況調査、利活用実態調査、管理体制実態調査
結果概要	<p>アカガシ群落やウラジロガシ群落、ツガ群落等の森林は、現状において原生的な天然林が維持されているが、ニホンジカの食害により下層植生が貧弱になっている、もしくは不嗜好性植物が優占している状況が確認され、群落の維持・更新への影響が懸念される。</p> <p>自動撮影調査の結果、複数の地点でニホンジカ（オス・メス・幼獣）の生息が確認されたことから、当該保護林にニホンジカが定着・繁殖していると判断された。</p> <p>これらのことから、当該保護林はニホンジカによる森林被害が顕在化している地域と判断される。</p>

黒蔵谷生物群集保護林 位置図



保護林内での注意事項

- ★貴重な植物群落の保護にご協力ください。
- ★植生の荒廃防止のため、歩道を外れて歩かないでください。
- ★許可なく動植物の捕獲及び採取をしないでください。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。